



桂川っ子

VOL.82

「やればできる」この一年！

桂川幼稚園 園長 長野陽一

本園で取り組んできた「異年齢児の縦割りグループ」「花・野菜の栽培活動」「運動遊び」を中心にこの一年の報告をします。

【異年齢児の縦割りグループの活動】

鯉のぼりや七夕飾りづくり、運動会のダンス、園周辺の散歩や一緒に遊ぶなど、縦割りグループで活動する機会をもちました。年長児は、年下の子とも関わる機会ができ、手を取って教えたり、世話したりしながら頼られる喜びを味わうことができました。また、年下の子は、年長児のたくましく活動する姿を見て、自分たちもやってみたいというあこがれの気持ちを抱くようになりました。

【花・野菜の栽培活動】

季節に応じて種まきから収穫まで、たくさんの種類の花や野菜の栽培をしました。幼稚園で取れたてのキュウリやミニトマトを弁当の時に食べたり、収穫した野菜を家に持ち帰ったりしました。弁当

「桂川っ子」の文字は、桂川中学校美術部員がデザインしたものです。



のおかずにもなりました。他にも収穫した野菜を使って、お母さん達に作ってもらったカレーや豚汁、雑煮等はとてもおいしかったです。来年度のカレーの材料の野菜の植え付けも終わりました。成長するのを楽しみにしています。

【運動遊び】

毎朝、鉄棒・跳び箱や朝の運動等、年齢に応じた運動遊びに取り組みました。体力づくりの効果と合わせて「やればできる」という自信がついたようです。卒園する5歳児は、竹馬に全員が乗れます。逆上がりもほぼ全員、跳び箱5段も9割が跳べます。縄跳びも頑張って練習しています。年中・年少児も、卒園するまでには全員できるようになると頑張っています。



「やる気」を持たせた一年間

桂川小学校 校長 大庭公正

本校に赴任して一年、子どもたちの姿を見てきて感じたことは、バランスのとれた成長があったことだろうと思っています。どんなに理解が速くても、体が丈夫であっても、やる気がなかったら、成長が見られないことがあります。

企業では、就職などに際して、心・技・体のうち、心を最も重視して選考していると聞きます。株式会社パイロットの板垣稜夫さんは、「心×(技+体)」という式で表されているそうです。技と体が優秀でそれぞれ5であっても、やる気が1であれば、かけ算ですから答えは10にしかありません。逆に、技と体が普通で3であっても、やる気が4であれば、答えは24となり、会社への貢献度は倍増すると考え、採用されているそうです。

このやる気(心)には『創造工夫』することが前提になっており、物事をじっくり見つめ、どうしていくかを考える源になっているのではないのでしょうか。

このことは、本校の子どもたちにもあてはまることではないかと思っています。一人一人の子どもたちには、それぞれ得手、不得手があります。苦手なことをなくし、得意なことにして

いくことが、教育の究極的な目的ではありますが、現実的にはなかなか厳しいものがあります。

そこで、本校では、子どもたちにあきらめないで最後まで取り組んでいくこと(耐力)を徹底するようにしています。その一つの例が、数々の学力調査において、無回答率が極端に少ない点に表れています。その結果、点数が上がったことで、子どもたちの自信につながってきました。これが、次のやる気に結びついてきたのではないかと分析をしています。

学力も体力も向上した方がいいのですが、何より小学校期においては、何事に対しても、常に「やる気(問題意識)」をもって取り組ませることが必要だと思っています。

次年度も、子どもたちの「やる気」を持たせ、いろいろな活動にチャレンジさせ、桂川小の子どもとして自信を持って過ごさせたいと考えていますので、ご支援、ご協力をお願いします。

